

熊本市の小中学校の耐震化状況等について

熊本市教育委員会事務局施設課

耐震化の状況

(平成 26 年 4 月 1 日現在)

全棟数 2 階建て以上ま たは 200 m ² 超 (a)		耐震化済			耐震化が必要				耐震化率 (b)/(a)
		(b)	新耐震	補強済 補強不要	Is 値(耐震診断)				
					Is<0.3	0.3≦Is <0.7	未判定		
校舎	628	628	242	386	0	0	0	0	100.0%
体育館	155	155	89	66	0	0	0	0	100.0%
計	783	783	331	452	0	0	0	0	100.0%

(学校毎の耐震診断の状況は、別紙「熊本市立小中学校・高校・幼稚園の耐震診断等実施状況一覧」のとおり)

耐震化の状況説明

耐震化済	新耐震	大規模な地震に対応するため昭和 56 年 6 月に施行された新耐震基準に基づいて建てられた建物。
	補強済 補強不要	新耐震基準以前に建てられた建物（昭和 56 年以前の建物）のうち、耐震補強が完了した建物及び耐震性があり補強の必要がない建物。
耐震化が必要	昭和 56 年以前の建物で耐震化の必要のあるもの。	

用語の説明

Is 値 (構造耐震指標)	建物の耐震性能を表す指標で、建物の構造部材の強度と粘りをもとに、形状や経年劣化を考慮して階別、方向別に算出するが、そのうちの最小値を用いる。
q 値 (保有水平耐力指標)	保有水平耐力に係る指標(保有水平耐力＝建物が水平方向に受ける力に耐えられる力)。建物形状や耐震壁の配置バランスが悪いと数値が小さくなり耐震性能が低くなる。
コンクリート強度	コンクリート強度試験による値
耐震化優先度調査	どの学校施設から耐震診断を実施すべきか、その優先度を判定するための簡易的な調査。優先度の高いランク①から 5 段階に評価される。

【小中学校の耐震化の方針】

- ① 平成 18 年度で完了した耐震化優先度調査の結果に基づき、平成 19 年度から耐震診断を行ってきましたが（一部はそれ以前から実施）、平成 22 年度までに対象となる全ての校舎・体育館の耐震診断が完了しました。
- ② 耐震診断の結果、Is 値に q 値またはコンクリート強度を加味したうえで緊急度ランクを策定し、緊急性が高いと判断される学校から耐震化工事を進めました。
- ③ すべての校舎・体育館について、平成 25 年度までに耐震化（構造体）を行いました。